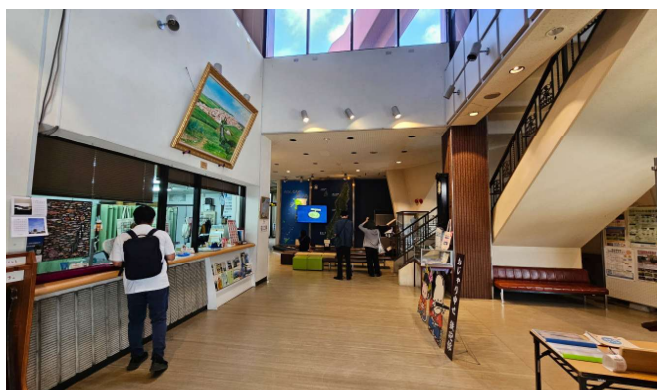
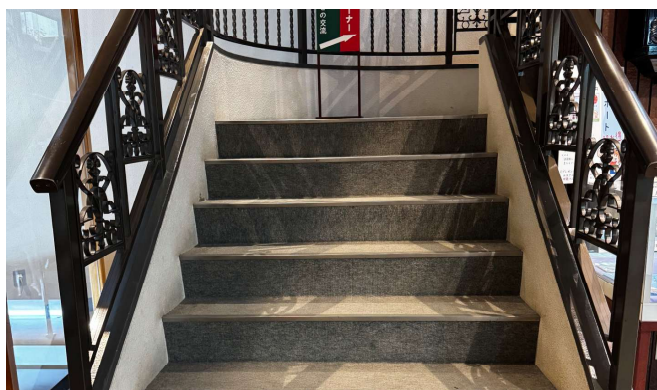


種子島開発総合センター現状写真



①玄関ホールの収容力

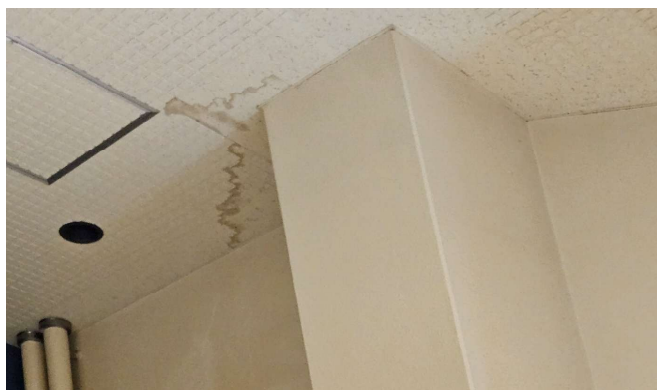
西之表市および種子島にとって重要な博物館であるにもかかわらず、現在のホール空間は将来的な来館団体の受け入れに十分ではなく、その他の来館者の通行を阻害してしまう恐れがある。受付位置を変更し、来館者に使える面積を拡大すると、より開放的で落ち着いた空間となる。



②2階への動線

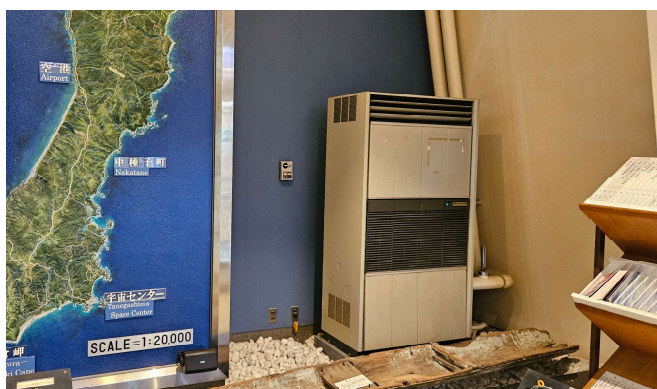
ポルトガルと連携した活動・イベントの紹介を行う2階に上がる階段は、不特定多数の利用者が利用する階段としては非常に急であり、それにより通行上の危険や、展示物の鑑賞を諦める来館者が発生すると考えられる。

改修により地域の参加が増える見込みのため、2階エリアのアクセスを容易にし、より安全な基準に適合させることが重要。



③天井の漏水箇所の改修

1階エントランスロビーの柱上部の天井に漏水跡が見られる。将来の維持管理リスクを最小化するため、劣化している箇所を精査し、修繕が必要と考えられる。



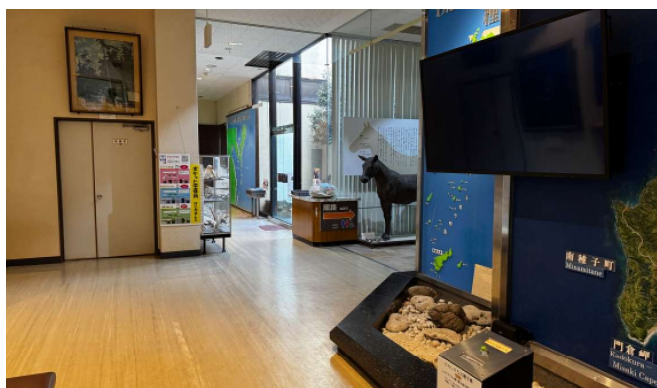
④空調設備の隠ぺい

大型の換気設備が来館者の目に触れており、館内ツアーの冒頭「わたしたちの種子島」映像のテレビ横という目立つ位置にある。必要設備は家具やスクリーンで一体的に覆い、保守用開口を確保することが望ましい。



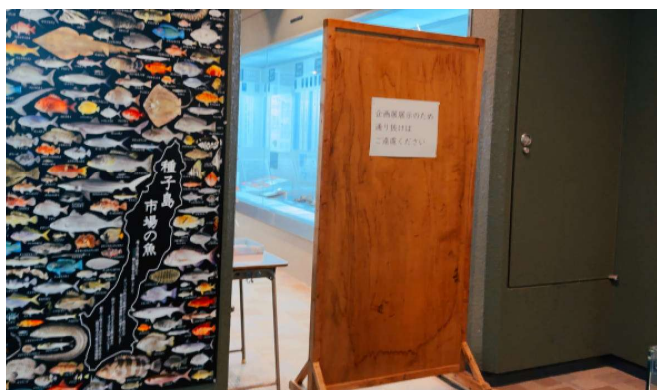
⑤映像再生ボタンの位置

「わたしたちの種子島」再生ボタンを収める機器が不適切な位置にあり、映像理解に必要な地図の一部を遮っている。関連機器を含めマルチメディア区域全体を精査し、効果的な体験を担保することが必要である。



⑥映像の再生方法

現行の再生方法は職員評価が低く、音量が過大で他室にも聞こえる。適切な機器と組み合わせた館内マルチメディアシステムを構築し、体験を明確かつ理解しやすくすることが必要である。



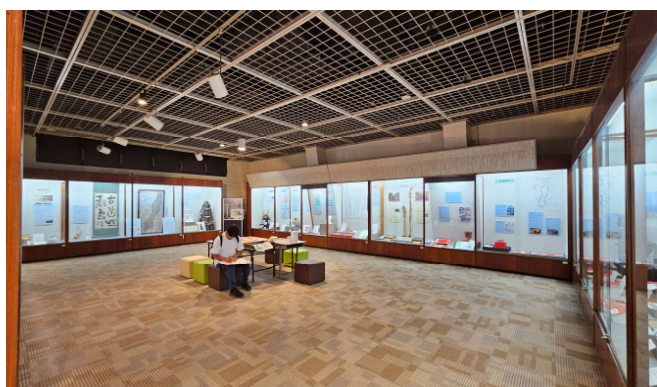
⑦動線の不連続性

企画展示室が島の歴史を連続的に扱う部屋の間に挟まれるなど、体験が反復的で不均一に感じられる。空間を流動的に整え、自然で直感的に展示を理解できる順路とすることが必要である。



⑧トイレ

来館者の不満が最も多いのはトイレであり、多くが現代的な洋式を望む。展示の途中にある立地も問題である。より機能的な場所へ移設し、休憩・待合エリアに置くことで行列による渋滞と騒音の影響を回避することが望ましい。



⑨空間の不均衡

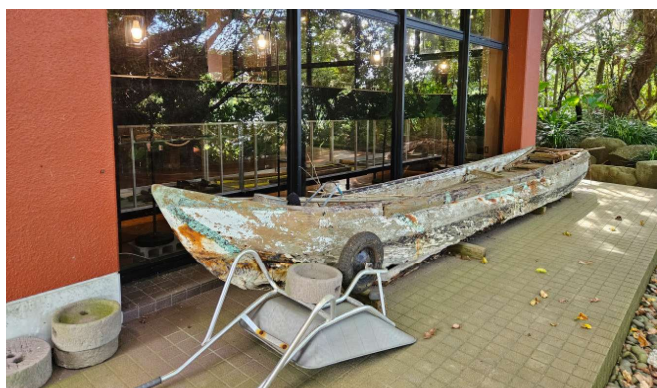
非常に狭い空間と未活用空間が混在し、展示の最適化を阻害している。照明が明るすぎる点も集中を妨げる。展示ケースと資料の均等配置に向け内装を再編し、照度を適正化して没入感を高めることが必要である。



⑩レイアウトの直感性不足

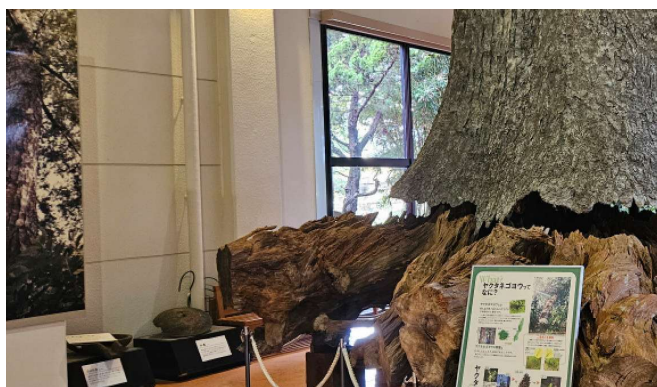
第2室の年表は重要であるが、現状は文字のみで下部に対応資料がなく、照明も不十分である。文章資料のテーマ化に加え、図版や翻訳機能を備えたQRコードを導入することが有効である。

展示ケース内のコミュニケーションはインパクトに欠け、グラフィックやパネルは今日のニーズに合わせた更新が必要である。歴史資料をより現代的で訴求力の高い手法に適合させ、包括的で没入的な体験とすることが望ましい。



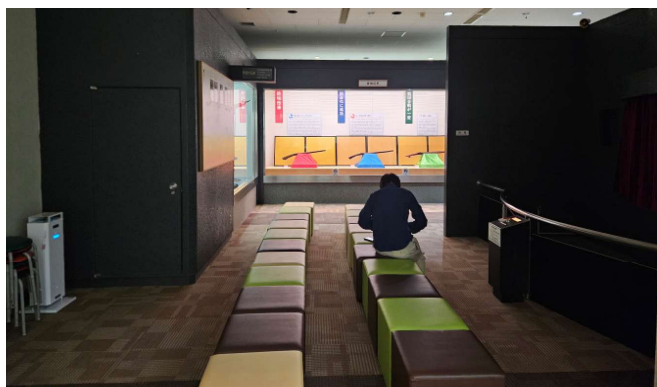
⑪活用されていない資料の維持

付属室は大きな窓から屋外を望むが、現在は博物館背面の荒れた丸木舟と作業用具が視界に入る。継続的な維持管理と細部への配慮により、この庭自体を展示の一部にすることが望ましい。



⑫別館から庭への眺望

ヤクタネゴヨウの大木が展示された部屋は二面で豊かな植生に面するが、南西側では建物他部分が見え自然感が損なわれる。在来植物で囲い、自然要素のみの風景に没入できるようにすることが望ましい。



⑬空間の不均衡（別視点）

第2室と同様に、当該箇所は狭く、特に鉄砲渡来の映像鑑賞時に動きづらい。空間の有機的な再編で来館者動線を整理し、体験を明快かつ快適にすることが必要である。



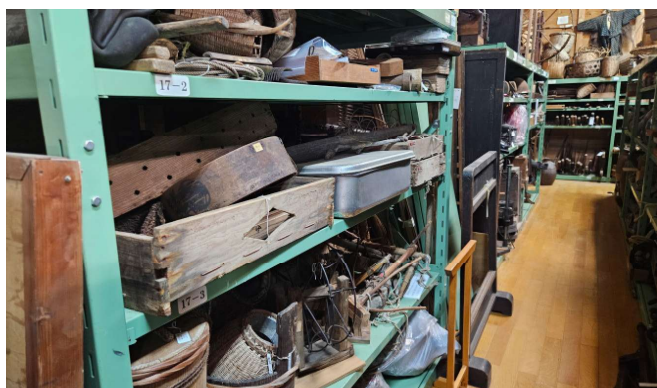
⑭国際的な銃展示

大規模な鉄砲展示には海外製の模型が多いが、現行キャプションは品名と原産国（国旗）のみに限られる。製作地の詳細と原産国言語での翻訳を併記し、外国人来館者にも充実した展示とすることが望ましい。



⑮収蔵庫の温湿度

収蔵庫内部の温湿度管理システムは旧式で、資料保存に適しているとは言い難い。自動・遠隔管理が可能な最新の環境制御設備に更新し、非展示品の保存環境・保存精度を高める必要がある。



⑯収蔵庫の保管方法

収蔵庫の保管棚は、その収蔵資料の多さから、資料同士の適切な距離の確保がなされていない状況である。より広い収蔵スペースを確保し、資料同士の過密な状態を解消することが急務である。また、全ての資料はシステムデータベースに登録済みであるため、収蔵棚に番号をふり、視覚的に即座にデータベースと紐づけられると望ましい。



⑰事務室

事務室の現位置は機能を十分に発揮できず、ロビーに近いため静粛性も担保されない。手狭さや天井漏水も課題である。受付・事務・収蔵を連結する動線を設け、職員と来館者の流れを交差させないことが望ましい。



⑱物語性の不足

種子島の鉄砲史におけるポルトガルとの関係は重要である。資料を視覚的・年代順に配置し、世界史・世界地理の中で種子島がどのような役割を持ち、その希少性が来館者に伝わりやすい展示計画を行うことが望ましい。



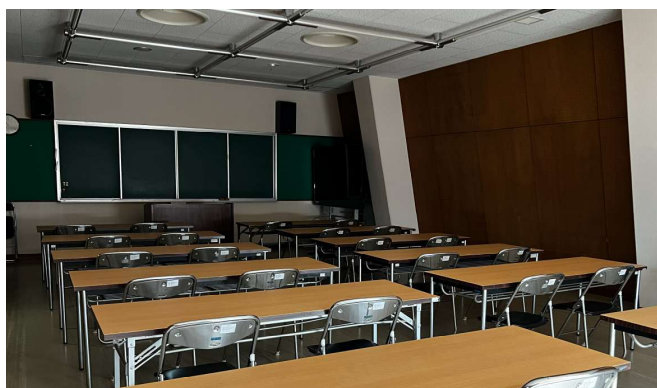
⑲未活用の潜在性のある屋上空間

大テラスの防水層は内装を漏水から守る一方、アスファルト系層が熱を蓄え室内へ放出して不快な環境を生む。嵩上げされた広場・庭を設計して断熱し、海と馬毛島の眺望を活用できる休憩空間とすることが望ましい。



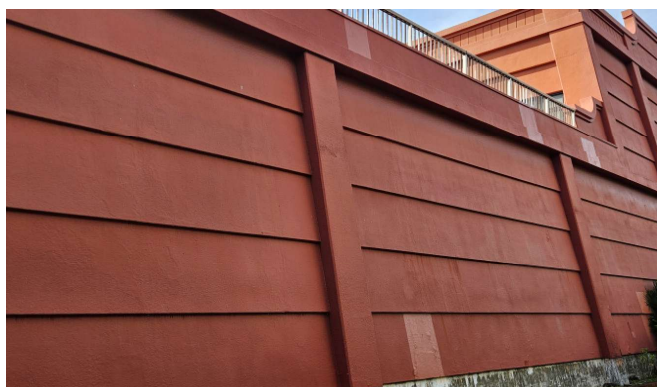
②第二研修室の資料

本来は研修室である2階の一室は、現状下野敏見氏の資料倉庫として使用されている。そのため、資料の適切な保存のための空調管理機能を備えておらず、また現状の空調設備も手動式であるため、常に空調管理が行えておらず、管理機能劣化の危険がある。収蔵の増設・新設により適切な環境で資料を保管するとともに、全資料を整理・目録化し、研究者等が参照できる環境を整えることが必要である。



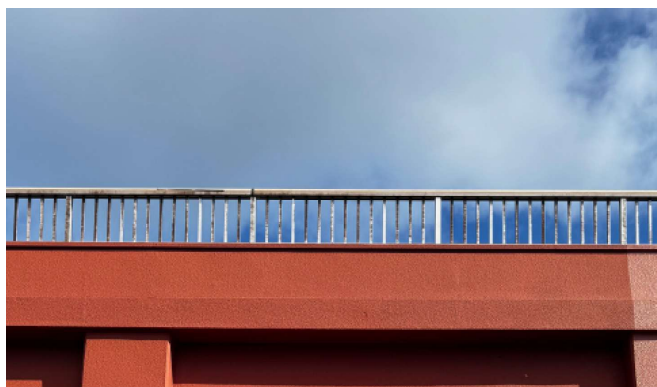
②1 2 階の断熱

2階の会議室と連絡廊下は屋根に直結し、晴天時に非常に暑くなる。今日の気象に適した屋根断熱を施し、エネルギー損失を抑えつつ会議室の快適性を高めることが必要である。



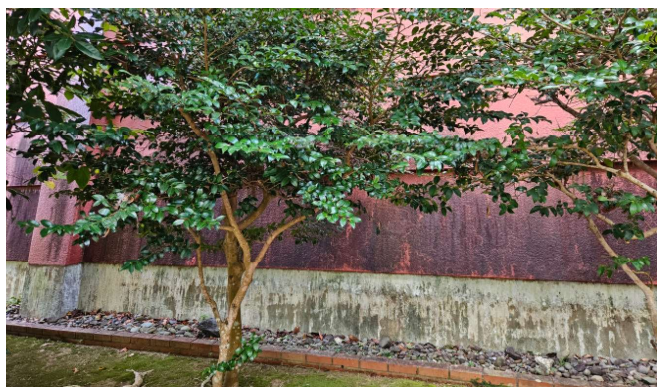
②2不整合な塗装補修

外壁には周辺の色と連続していない斑補修や垂れ跡、水ぶくれが発生しており、建物の外観の品位を損なっている。対象部位に応じた丁寧な補修を行い、美装化に努めることが必要である。



②3褪色・剥離した手すり

手すりが劣化し、外壁同様に外観の美観を損なってしまっている。対候性塗料を用い、建物全体と調和する中立色で統一仕上げとすることが望ましい。



②4建物近接の植栽

建物近くの植栽は、博物館のアイデンティティを高めるが、建物との接触は劣化を生み老朽化を加速する。改修時のランドスケープ設計において、建築計画と共に検討することが必要である。